やまなみ

御船町立御船中学校　学校便り

令和３年　３月号

校訓　自創友　律造愛

不易と流行

校長　作田　潤一

臨時教育審議会答申等で松尾芭蕉が残した言葉を引用して以来、教育を論じる際に、しばしば「不易」と「流行」という言葉が使われます。

改めて言うまでもありませんが、「不易」とはずっと変わらない本質（豊かな心や確かな学力の育成等）であり、「流行」とはその時々に合わせ変えていくこと（ICTの活用や英語教育の充実等）です。

卒業式で、背筋をぴーんと伸ばして式に臨む生徒の姿、惜別の涙を浮かべる生徒の素直な表情を見たときに、生徒の「学びたい」という意欲に応える教育を中学校として十分にできたのだろうかと省みるのです。教育の「不易」を改めて考えた感慨深い卒業式となりました。１１５人の卒業生一人一人がふるさとに誇りをもち夢の実現に向けて努力し続けて欲しいと祈ります。卒業おめでとうございます。

芭蕉は、俳諧上達の秘訣を聞かれ、「過去の自分に飽きることだ」と答えたそうです。その意味は、常に努力を重ねつつ、さらに新境地を切り開いていこうとするからこそ、そこに進歩があり、物事の根本・本質により近づけると考えての発言だと言えます。

本質的なもの「不易」を追究するためには、常に変化「流行」をしていかねばならないのであり、変化する「流行」場合も本質的なもの「不易」を踏まえていかねばならないと考え、「挑戦」をキーワードに今年度の教育活動を行って参りました。

今年度は、コロナ禍の中で制約も多かったのですが、保護者や地域の皆様の温かいご理解とご協力に支えられ、生徒たちは一生懸命に頑張ってくれました。皆様に感謝を申し上げます。

＜祝！！卒業、１１５名巣立つ＞

去る３月１３日（土）に卒業式を行いました。様々な制限の中での式でしたが、無事に行うことができました。卒業生代表として、宮本帆花さんが答辞を読みました。その内容は、「愛校心」や「後輩を思う気持ち」にあふれており、会場中が涙しました。また、在校生代表、髙濱尚央君の読んだ送辞にも「先輩への感謝の思い」が綴られていました。涙を流しながら聞く卒業生の姿がありました。

・・・私たちは今、新たな扉の前に立っています。明日になれば、私たちはそれぞれ違う扉の向こうの世界へと新たな一歩を踏み出します。そしてまた困難にぶつかり思い悩み、苦しむことがあるでしょう。・・・そんな時私たちは何度も通ったこの中学校生活の懐かしさに思わず引きつけられてしまうかもしれません。・・・・（宮本さん、答辞）

答辞を読む宮本さん

送辞を読む髙濱君

私たちを励ましてくださる先輩方、来年は自分たちもこうありたいと憧れました。・・・どうかいつまでも、御船中生として誇りを持って私たちの目標として輝き続けてください。先輩方が作り上げられた御船中は私たちがしっかりと受け継ぎます。そしてさらに前を向いて進んでいくことをここに誓います。・・・・（髙濱君、送辞）

今回で御船中学校は７０回目の卒業式を終えました。７０年も卒業式が続いているのは、これまでの諸先輩方が培われた伝統が脈々と受け継がれているということであり、今年の三年生もしっかりとバトンをつないでくれました。新型コロナウイルス感染防止対策のため何かと、制約の多い一年でしたが、それを乗り越えた三年生なら、きっと今後の荒波を乗り越えていけることでしょう。いつまでも応援しています。

＜学校運営協議会開催!＞

先月、今年度最後の学校運営協議会を開催しました。今年一年間の振り返りを行い、来年度の計画を立てました。委員のご意見を紹介します。

先生方の部活動指導は勤務時間外で大変。部活動指導員の任用や回覧板等で指導者募集をしてはどうか。

コロナで大変な中、行事や教科、様々な工夫ある取組がなされありがたい。先生方の熱意を感じる。

観光ボランティアを行っているが小学校が中心。中学校でもチャンスがあればぜひ協力させてください。吹奏楽部九州大会金賞おめでとう.。

毎回、授業を参観したが、以前に比べてかなり良くなってきている。整理整頓もよくできている。中学校の努力を感じる。

中学校の輝かしい成果の裏に先生方の苦労がある。町としての働き方改革も進めていただきたい。

中学校の活動に大変良い評価をいただきました。来年度もさらに地域と協力して参ります。

中学校職員が教育論文に応募し、入選しました。その数何と２９本です。今後も子ども達の教育に邁進して参ります。

保護者の皆様、地域の皆様、毎月「やまなみ」を読んでいただき感謝いたします。中学校の情報は少しでも届きましたでしょうか。今後も地域とともにある学校を目指して参ります。よろしくお願いいたします。